

青い鳥のお仕事をのぞいてみよう！

～療育センター・通園担当看護師の場合～

<何をする人？>

通園されるお子さんの健康面に関する相談や援助を行います。その他、内科検診、耳鼻科検診、歯科検診、検尿なども行います。医療機関の受診が必要な場合は、地域の病院の情報提供を行い、かかりつけ医を探します。

<支援の対象はどんな人？>

主に医療ケアが必要なお子さんや、体調に配慮が必要なお子さんに支援を行います。必要に応じて療育、個別面談に同席し、保護者と担任の先生と共に登園中の健康面に配慮をしています。

<どんな支援をするのか教えて！>

一人一人の健康状態に合わせて楽しく通園できるように支援します。

急な発熱や、けがの対応、感染症への集団感染の予防を行います。新型コロナウイルスの感染予防は、これまでの感染予防の対応に加え、さらに消毒の範囲が広がりました。このため、職員が安全に消毒作業をできるように、消毒液の具体的な使い方を種類別に一覧表にして、わかりやすくしました。例えば、塩素系の消毒は「手袋を使うこと」や「薄め方」や「目に入ったり、吸い込んだりすると危険なため、スプレーで使用はしない」などです。また、その他の感染症について、正しく予防する方法を伝えて、全員が安心して対応できるように努めています。もしもお子さんが感染症にかかっても、速やかかつ適切に対応することで、集団感染を防ぎます。

<ある一日の流れ>

08:35【通園ミーティング】

朝のミーティングに参加します。お子さんの欠席理由の把握や、どのクラスがどこで活動をするのかを知っておくことで、けが等の緊急時に駆け付けられるようにします。

09:00【登園前】



その日に登園するお子さんの経過や、最近の体調について、カンファレンスで情報を共有します。また医療ケアが必要なお子さんのクラスに医療ケアの物品を用意します。

通園されるお子さんには、広く一般的な医療知識が正解とは限りません。ご家族が自宅で行っているケアのコツや、ケア時のお子さんの様子を教えていただき、家庭と連携を取りながら医療ケアを行っていくよう心がけています。

10:00【受け入れ／健康チェック】

受け入れ時に、家庭で体調の変化がなかったか聞き取りをします。体温・脈拍・呼吸の状態・機嫌などの全身の状態を確認します。体調を言葉で伝えられない場合があるため、いつもの様子と違う時は、早めに対応して体調の悪化を予防します。



【活動中】

穏やかな表情・安定した呼吸・体の緊張の緩みは、心地よさや楽しさを表すコミュニケーションサインの場合があります。お子さんの気持ちを汲み取り「○○楽しいね」と言葉で語りかけます。



クラス間の移動があるため、その際に看護師が感染症を広げてしまわないよう、携帯しているアルコールジェルで手の消毒をします。

12:00【注入】

口から食べられないお子さんには、水分や栄養を胃管や、胃ろうから注入します。注入用に調理した給食を胃ろうから入れる事もあります。給食メニューの香りを感じたり、お友達と同じ給食を食べる喜びが生まれます。

お子さんを見守りながらクラスで給食を食べます。



13:00【吸引】



お子さんに必要なタイミングで、吸引を行います。

気管切開をしているお子さんは、気管カニューレから吸引をします。

13:00 - 14:30【見送り】

日頃の生活の場でされているケアによって、お子さんの健康状態が保たれています。登園中の体調について保護者に伝え、共有します。



14:30【降園後】



使用した医療ケアの物品を洗浄し、清潔に保管します。看護記録を作成して、お子さんに合ったケアを提供できるようにカンファレンスで話し合います。

15:00【休憩】

三密を避けて、空きスペースでお茶や読書などをしながらそれぞれ自由に過ごします。

16:00【会議・ケースミーティング】

会議やミーティング以外にも、他職種とお子さんについての情報を共有し、それぞれの専門職の視点から意見交換をしています。お子さんに実践できる支援を専門職から直接学ぶ機会にもなっています。